



伊勢志摩国立公園

Ise-Shima National Park



海、山、人が重なり合って生きる。 伊勢志摩の日常を未来へ。

あこわん
英虞湾をはじめとする伊勢志摩の自然は、ただ「美しい」だけではありません。海を守り、山を育み、田畑を耕し、自然や神に感謝しながら生きる。海と山、そして人の営みが重なり合って生まれる「日常」こそ、この地の宝だと私たちは考えます。

区域の約96%が私有地という、日本でも稀有な伊勢志摩国立公園では、多くの人がこの地に暮らし、働き、自然とともに生きています。伊勢志摩の歴史は、自然と人との密接な関わり合いによって紡がれてきた物語そのもののなのです。

国立公園の指定から80年を迎えるにあたって、このパンフレットには、伊勢志摩が誇る切実で尊い日常を生きる人々の想いを込めました。

この貴重な環境をあらためて見つめ直し、当たり前を感じる日々が、いかに特別なものであるかを再認識するきっかけとなれば幸いです。そして、この日常が末長く受け継がれていくよう、私たちも地域とともに歩み続けます。



伊勢志摩国立公園
指定80周年

Index

伊勢志摩国立公園マップ	P4-5
伊勢市	P6-7
鳥羽市	P8-9
志摩市	P10-11
南伊勢町	P12-13
80周年記念 特別座談会	P14-15

伊勢志摩国立公園指定80周年記念事業 PR大使 名探偵メイちゃんのご紹介



その愛くるしい姿から、鳥羽水族館のアイドルとして知られるラッコのメイちゃんが、80周年を記念して伊勢志摩国立公園のPR大使に就任しました。このパンフレットでは、名探偵に扮したメイちゃんが、“みんなに知ってほしい伊勢志摩の魅力”を探して、地域で活躍する方々にインタビューを実施します。

伊勢志摩国立公園マップ

三重県の南東部に位置する伊勢志摩国立公園は、伊勢市・鳥羽市・志摩市・南伊勢町の3市1町で構成され、伊勢神宮とその背後に広がる森林を中心とした内陸エリア、リアス海岸に代表される海沿いのエリアという、ふたつの表情をあわせ持つ国立公園です。

そして、伊勢志摩国立公園の最大の特徴として挙げられるのが、**区域の約96%を私有地が占める**という点です。他の国立公園と比べても、この地には特に多くの人々が居住し、自然と密接に関わり合いながら生活を送っています。

DATA

指定日	昭和21年11月20日	国立公園利用者数	約788万人(令和5年)
面積	陸域:55,544ヘクタール／海域:20,900ヘクタール	土地所有別	国有地 0.3％／公有地 3.6％／私有地 96.1％
関係市町	伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町		令和7年11月現在

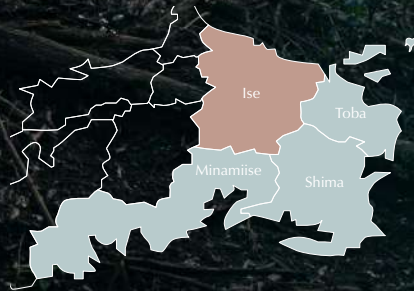


伊勢市

Circle of Forests, Rivers, and Faith
Ise, Where Nature and Life Are One

森と川、祈りと営みが ひとつの円を描くまち

市域の約8割が森林に覆われる、緑豊かな伊勢市。その中でも約5,500ヘクタール、すなわち市全体の約4分の1を占めるのが、伊勢神宮の境内地を包む「宮域林」です。式年遷宮の御用材を育てる場であり、水を蓄え、命を育む森でもあります。森が健やかに保たれることで川が潤い、田畑が実り、やがて海へと流れ出す。豊かな海は人々の暮らしを支え、その恵みが神宮へと供えられる。そんな循環と共生が、伊勢の人々の暮らしと心に深く息づいています。



伊勢神宮の背後に広がる宮域林

Ise

伊勢市をもっと知る

二見浦海岸・夫婦岩

伊勢湾に面する景勝地・二見浦海岸。その沖合に立つ夫婦岩は、大注連縄で結ばれた男岩と女岩からなり、日の出遙拝所として古くから親しまれています。二見興玉神社の浜辺にあり、伊勢神宮参拝前に心身を清める「浜参宮」の地として親しまれています。



自然

三重県伊勢市二見町江575(二見興玉神社)
TEL:0596-43-2020
<https://futamiokitamajinja.or.jp/>

式年遷宮記念せんぐう館

式年遷宮の歴史と伝統を伝える博物館。外宮の勾玉池のほとりに建ちます。普段は見ることのできない神宝の調製工程や、外宮正殿を原寸大で再現した模型が展示され、20年に一度の大祭の意義を深く学ぶことができます。



歴史・文化

三重県伊勢市豊川町前野126-1(外宮勾玉池)
TEL:0596-22-6263
入館時間:9時~16時30分(最終入館16時)
休館日:第2、第4火曜日(祝日の場合はその翌日)
<https://www.sengukan.jp/>

おはらい町

伊勢神宮内宮の前で栄え、五十鈴川に沿って約800メートル続く石畳の通りに、伊勢特有の切妻造の建物が軒を連ねます。赤福本店をはじめとする老舗や飲食店など約100軒が並び、参拝の前後にグルメやお土産探しが楽しめます。



産業

三重県伊勢市宇治中之切町周辺
<https://ise-oharaimachi.com/>

持続可能な宮域林を目指して

伊勢神宮では、式年遷宮の御用材を自給するために、200年という歳月をかけて森を育てる長期計画が進められています。1923年(大正12年)に定められた「神宮森林経営計画」に基づき、植林・保育・間伐を繰り返しながら、神宮の森を自らの手で守り育ててきました。これは、次の式年遷宮のためだけでなく、水源涵養や生物多様性の保全など、森が持つ多面的な機能を未来へとつなぐ取り組みでもあります。

〈取材先〉神宮司庁営林部
神宮司庁
三重県伊勢市宇治館町1
<https://www.isejingu.or.jp/>



Mei's Detective File

メイちゃんの探偵ファイル Vol.1 神宮司庁(伊勢神宮)営林部の松永彦次さんにインタビュー

森を守り、未来を育む
式年遷宮がつなぐ人と自然の循環

20年に一度行われる式年遷宮は、伊勢神宮の社殿を新たに建て替えて、神々を新宮へと遷す大祭。約1300年にわたって受け継がれてきたこの伝統は、常若の精神(常に新しく若々しくあり続けるという考え)を象徴しています。

遷宮には多くのヒノキが必要とされ、使用される木材は「御用材」と呼ばれます。かつては宮域林で賄われていましたが、やがてヒノキが不足し、長野県の本曽や岐阜県の裏木曾から調達されるようになりました。しかしそれらの資源も減少し、自給体制の確立が求められたことから、1923年(大正12年)に「神宮森林経営計画」を策定。100年が経過した今も、その歩みは着実に続いています。

そんな宮域林の管理を担うのが伊勢神宮の営林部です。「植えて、育てて、大きくなた木を伐つて、また植える。このサイクルを途絶えさせないことが私たちの仕事です」と部長の松永彦次さん。その言葉には、先人から受け継いだ森を次の世代へつなぐという強い思いが滲みます。

松永さんは続けます。「森は伊勢神宮の営みを支えるだけでなく、地域の自然環境全体を守っています。持続可能な森づくりは、地域の未来をつなぐこと、そのものではないでしょうか。その責任と誇りを胸に、営林部の人々は今日も、地域の暮らしと祈りを支える森と静かに向き合っています。」



鳥羽市

*Tales of Islands Living with the Sea
Toba, the Home of Ama Divers*

海と生きる島々の物語 あま 海女のふるさと、鳥羽

鳥羽市は、有人・無人を合わせた多くの離島と半島から成り立つ海のまち。黒潮がもたらす豊かな漁場を基盤に、古くから漁業を中心とした生活が営まれてきました。地域ごとに特色ある祭礼や習俗が受け継がれ、海と深く結びついた独自の文化が息づいています。なかでも素潜りによる海女漁は象徴的な存在。海とともに生きる知恵と技術が世代を越えて継承されてきました。いまも日本最多の海女数を擁し、地域のアイデンティティとなっています。



日本最大のあま 海女文化

全国におよそ1200人いる海女のうち、約500人が暮らす鳥羽・志摩地域は、日本最多の海女数を誇る海女漁の中心地。起源は2000年以上前ともいわれ、「獲りすぎない」という海への敬意に基づき、持続可能な漁業を実現してきました。しかし、海女の高齢化や海洋環境の変化による課題が顕在化する昨今。技術継承と資源保護の両立に向け、地域と行政が連携した取り組みが進められています。

<取材先>あらしま朝市

三重県鳥羽市安楽島町661-4
JF 鳥羽機部漁協安楽島支所前
TEL:090-7950-4425
営業時間:毎月第2・第4日曜日 8時~10時ごろ
https://www.instagram.com/arashima_shinsen



Mei's Detective File

メイちゃんの探偵ファイル Vol.2 現役海女の出間り力さんにインタビュー

海に生きる、地域と生きる。
海女さんが守る海と
山と人のつながり

「小さい頃から父に連れられ海に潜っていました。服のまま『こ潜っけ』『つてドンと放り込まれて』。そう振り返るのは、鳥羽市安楽島で25年以上海女を続ける出間り力さん。幼い頃から海での漁が日常で、海女になることは必然でした。

近年はとくに海の環境変化を肌で感じています。年間40日はと潜っていた時期から、いまでは30日も難しくなりました。10年前は「わさわさ」生えていた藻場が「何もなし」なんてことも。「海と陸はつながっているんです」。田畑の放棄により栄養豊富な水が海に流れず、海の貧栄養化を実感しています。

一方で、海女文化の継承には明るい兆しもあります。安楽島では漁師の家に嫁いできた女性たちが週一、二度海へ出て経験を積み、隣町では地域おこし協力隊員も仲間に加わりました。若い世代の参加が増え「うれしいね」と顔をほころばせます。

海女としての営みと並行して地域活性化にも取り組んでいる出間さん。14年前から「あらしま朝市」を始め、惣菜販売や「お寺でマルシェ」の開催など「安楽島の人たちに喜んでほしい一心」で続けています。

「海が大好きだから、潜れる限り潜りたい」。海女として、地域の一員として歩み続ける出間さんに、文化継承の真の姿をみたように思います。



鳥羽市をもっと知る

無人島カヤックツアー

鳥羽湾には「三ツ島」と呼ばれている無人島群があり、多島美の海を体感できる無人島カヤックツアーが開催されています。特有の文化が残る四つの離島を舞台にしたツアーも。

海島遊民くらぶ

三重県鳥羽市鳥羽1-4-53
TEL:0599-28-0001
営業時間:9時~17時(お盆・年末年始休み)
<https://oz-group.jp/>



真珠養殖

養殖真珠発祥の地でもある鳥羽市。明治期に御木本幸吉が成功させた技術が地域産業として定着し、海の恵みを宝玉に育てる営みが脈々と続いています。

ミキモト真珠島

三重県鳥羽市鳥羽1-7-1
TEL:0599-25-2028
営業時間:9時~閉場時間は日によって変動
<https://www.mikimoto-pearl-island.jp/>



鳥羽水族館

飼育種類数日本一を誇る鳥羽水族館。人と海の関わりを未来へ伝える拠点として、伊勢志摩国立公園指定80周年記念事業のPR大使にも任命されたラッコのメイちゃんなど、希少な海洋生物たちを守り育てています。

三重県鳥羽市鳥羽3-3-6
TEL:0599-25-2555
営業時間:9時30分~17時(最終入館16時)
<https://aquarium.co.jp/>



志摩市

Experience the Sea with All Five Senses
Shima, a Sanctuary of Ecotourism

海を五感で感じ、知って学ぶ エコツーリズムの聖地

深い入り江が複雑に重なるリアス海岸が特徴の志摩市。穏やかな英虞湾と外海が隣り合う独特の環境は、多様な生態系と豊かな漁場を育み、波静かな湾は真珠養殖の発展を支え、地域の暮らしを形づくってきました。近年はこの自然を舞台にしたエコツーリズムや環境学習の機会が広がり、訪れた人々は五感で海を感じ、地形や生態系への理解を深める。そんな新しい観光の可能性を探るフィールドとしても注目を集めています。



Shima

リアス海岸を舞台にしたシーカヤック体験

リアス海岸の恵みを活かして

英虞湾に代表される穏やかな内海と外洋が織りなす、志摩市のリアス海岸。この地形的特性を活用したエコツーリズムでは、五感を使って自然を体感するシーカヤック体験や、貝殻を再利用して行うクラフト体験など、地形や生態系、山と海の循環について楽しみながら学びを深めます。「あるがままを変えない・減らさない」を基本理念に、持続可能な自然との関わり方を提案しています。

<取材先>志摩自然学校

三重県志摩市大王町波切2199 ともやま公園
TEL:0599-72-1733
営業時間:9時~17時
<https://shima-nature-school.jp/>



Mei's Detective File

メイちゃんの探偵ファイル Vol.3 エコツーリズム事業者の東友章さんにインタビュー



体験から芽生える環境意識
未来をつくる新しい観光

志摩市でシーカヤックなどの自然体験ツアーを開く「志摩自然学校」。代表理事の東友章さんは、英虞湾のリアス海岸を舞台に、地域の自然の魅力と直面する課題を伝え続けているひとり。

「まずは磯の香りに気づいてもらうんです」と東さん。志摩の海は波が穏やかで磯の香りが薄いのが特徴。その理由を地形から紐解き、やがて山と海の循環や地域の歴史へと話を広げます。五感を入り口に段階的な学びへ導くのが、自然学校ならではの工夫です。

映像制作や観光交流拠点のブックカフェの経営など幅広い事業を手がける東さんに「貫いているのは、「地域の現状や物語を伝えたい」という思い。自然学校でも「消費型の観光にせず、思い出し学びを持ち帰ってほしい」と語ります。近年の環境変化に伴って水質が澄む一方、栄養が不足し魚が減少する現実。「山を活かせば海が豊かになる」という循環を知ってもらうことで、環境を考えるきっかけになればと考えています。

最近15年以上続ける米作りを広げ、スイーツ開発といった食の取り組みにも力を注いでいます。「育てる意識を大事にしたい。海は借りているものだから」。観光を経済活動にとどめず、持続可能な暮らしそのものへつなげていく。東さんの挑戦はこれからも続きます。



志摩市をもっと知る

参観灯台

海の難所を照らし続けてきた航海の守り手。全国16基の参観可能な灯台のうち、「安乗埼灯台」と「大王埼灯台」の2基が志摩市にあります。



大王埼灯台

安乗埼灯台

三重県志摩市阿児町安乗794-1

大王埼灯台

三重県志摩市大王町波切54

波切節

志摩国は古来より「御食国」として知られ、豊かな海産物を朝廷や伊勢神宮に献上してきました。中でも、志摩市大王町波切地区でつくられるかつお節は「波切節」と呼ばれ、江戸時代には諸国番付で行司役を務めた名品です。いまでも昔ながらの「手火山製法」で製造され、その伝統製法を守り継ぐ地域の事業者が体験会などを通して、波切節の継承と保護に努めています。



歴史文化

伊勢海老漁

毎年10月に解禁される伊勢海老漁は刺し網漁法で行われます。小型の個体を採らないなど厳格な資源管理が徹底され、網捌きは家族総出の作業として地域の絆を強めてきました。中でも、志摩市の和具漁港は全国屈指の漁場として知られ、毎年多くの伊勢海老が水揚げされています。



産業

三重外湾漁業協同組合 和具事業所

三重県志摩市志摩町和具1896-53
TEL:0599-85-1122

南伊勢町

*Blessed with Bounty from Mountain and the Sea
Minamiise, a Land of Abundant Diving*

山の幸と海の幸が巡る みけつくに 御食国の豊かな暮らし

急峻な山々がリアス海岸まで迫る力強い地形を持つ南伊勢町。山と海が隣り合う環境によって、里山と里海の資源が循環し合う豊かな自然が育まれてきました。古くから朝廷や伊勢神宮に海の幸を献上してきた御食国のひとつで、温暖な気候を活かしたみかん栽培や沿岸漁業が根づいています。とりわけ真鯛養殖は黒潮分流の恵まれた環境を基盤に発展し、全国有数の産地として町の経済を支える産業です。



リアス海岸に浮かぶ真鯛の養殖いかだ

Minamiise

真鯛養殖を一步先へ

南伊勢町は全国屈指の真鯛養殖産地。リアス地形の湾内と黒潮分流がもたらす豊かな環境を活かした安定生産に加え、近年は加工・販売・体験観光を統合した六次産業化を推進しています。養殖見学や食育プログラムを通じて御食国の歴史を現代に伝え、自然と産業が調和した地域モデルを築こうとしています。

<取材先>(有)友栄水産

三重県度会郡南伊勢町阿曾浦345
TEL:0596-72-1351
営業時間:8時~18時 火曜定休
<https://yuuei.co.jp/>



Mei's Detective File

メイちゃんの探偵ファイル Vol.4 真鯛養殖業者の橋本純さんにインタビュー

技術を記録に残そうと大学院で学び直し、寿司の専門学校で腕を磨くなど精力的な挑戦を続ける橋本さん。その原動力は――「伊勢志摩には時が止まったかのような『間』がある。風が風ぎ、海面が共に鳴って船が逆さに映る。何度見ても心に残る美しい光景です」。日常に潜む特別な瞬間を胸に、自然とともに歩む未来を次世代へつなぎます。



「僕は海を間借りしているだけ」という橋本さんの目標は、温暖化などで環境が変化するなか「無理に増産するのではなく持続可能な仕組みをつくること」。頭や骨まで活かす加工法で可食部を倍近くに引き上げ、海への負荷を減らしながら価値を高めるなど工夫を重ねています。

南伊勢町で真鯛養殖を営む(有)友栄水産三代目の橋本純さん。家業の危機を機に26年前にUターンし、生産にとどまらず加工や観光を組み合わせて、新たな道を切り拓いてきました。世界を巡った経験から地元の価値を再認識し、2001年(平成13年)には養殖体験や食育プログラムを先駆的に導入。当時は「体験という発想自体が珍しく、ハイヒール姿で訪れる人もいたといいます。それでも「知ってもらいたいことが一番大事。体験すれば当事者になり、環境の変化に気づくことができる」と、地道に取り組んできました。

海を借りる者の責任と誇り
真鯛養殖から広がる
持続可能な未来



南伊勢町をもっと知る

展望台から望む星空

山と海が隣り合い集落の灯が少なく星空観察に恵まれた南伊勢。見江島展望台からは漁火と天の川が共に輝き、日常と宇宙がつながるような風景が広がります。



自然



見江島展望台(鶴倉園地内)

三重県度会郡南伊勢町道行電
TEL:0599-66-1717(南伊勢町観光協会)

愛洲の館

日本剣術の祖とされる愛洲移香斎の生誕地に建つ資料館。剣術だけでなく航海術や兵法にも精通した人物の足跡を紹介し、山と海に育まれた知恵と技を伝えています。



歴史・文化



三重県度会郡南伊勢町五ヶ所浦2366

TEL:0599-66-2440

営業時間:9時~16時

休館日:毎週火曜日、12月29日~翌年1月3日

https://www.minami-ise.jp/view_hs01.html

みかん栽培

温暖な気候と日当たりのよい斜面を生かしたみかんは町を代表する特産品で、栽培の歴史は100年以上。山肌に広がる段々畑は南伊勢を象徴する風景のひとつです。

そんな南伊勢のみかんと真鯛をモチーフにして生まれたのが、マスコットキャラクターの「たいみー」です。



産業



遊び×学び×産業×地域振興

4つの視点から紐解く “伊勢志摩にしかない日常”って？

伊勢志摩国立公園 80 周年を契機に、伊勢志摩に暮らし伊勢志摩で働く、全く異なる職業・肩書きの方々が集まり、それぞれの視点から伊勢志摩の魅力や特別さを語り合う座談会を開きました。それぞれの日常や現場体験から見えてくる地域の価値を踏まえ、次世代に何を伝え、どう継承していくべきか。地域の最前線で活動する4人が、未来への想いを込めて率直に意見を交わしました。

地域振興の視点
中村 一裕 さん
(南伊勢町／南伊勢町観光商工課)

産業の視点
谷口 博俊 さん
(志摩市／三重県真珠養殖連絡協議会会長)

学びの視点
椿 美幸 さん
(鳥羽市／菅島小学校校長)

遊びの視点
坂本 勝 さん
(伊勢市／神岳テラス 代表)

まずは自己紹介から

坂本さん 伊勢市でキャンプ場とコワーキングスペースを運営しています。外に出て戻ってきたからこそ、この土地の魅力を言葉で伝えることが自分の役割だと思っています。

椿さん 鳥羽市の離島にある菅島小学校で校長をしています。全校児童は21人。「島っ子ガイド」という活動が17年間続いています。子どもたちが郷土を学び、表現する取り組みです。

中村さん 南伊勢町役場で観光 PR を担当しているほか、職員有志数名で運用している町の公式 Instagram メンバーの一人です。5年半以上、ほとんど毎日更新していて、人口1万人の町ですがフォロワーは9000人を超えました。絶景だけでなく「人や暮らし」を伝える発信を心がけています。

谷口さん 志摩市の英虞湾で真珠養殖をしています。三重県真珠養殖連絡協議会会長として業界をまとめているますが、担い手不足が深刻で……。平均年齢は70歳を超え、課題を感じています。

当たり前の風景の中にある特別さ

椿さん 定期船から眺める鳥羽湾の夕景は何度見ても美しくて。毎回感動します。

中村さん 分かります。港に出入りする船など、人の営みがつくる風景に惹かれるんですね。

坂本さん 僕も30代で地域活動を始めて、「この土地って本当にすごい場所だ」と再認識しました。

谷口さん 観光的視点であれば横山展望台からの英虞湾が有名ですね。暮らしていると海ともにある日常の特別さを言葉にしづらい部分もありますね。

坂本さん だからこそ、当たり前の風景をどう価値として伝えていけるのか、一人ひとりが意識することが大事だなと思います。

発信方法を変えて見えてきたもの

中村さん Instagram を絶景写真中心から町の日常を紹介する投稿に切り替えたら、反応が大きくて。暮らしそのものが最大の資源なんだと実感しました。

椿さん それ、分かります。外国人観光客も観光地ではない場所に魅力を感じている様子がありますし。子どもたちも、教科書では得られない「記憶に残る体験」が必要かと。

坂本さん 知らなかった景色や人の物語に触れると、発見が広がりますよね。

谷口さん ただ一方で、真珠養殖の現場では摩擦もあります。海で遊ぶ人と仕事をする人の間でルールが共有されていなくて。受け入れルールの明文化も大事になってくると思います。



真珠養殖の現場で感じる可能性

谷口さん 海外での真珠需要は依然として高く、日本の生産量はその需要に対してまだまだ少ないと感じています。それこそがまさに、日本の真珠

が持つブランド力が世界的に評価されている証拠と言えるかもしれません。

中村さん 日本のブランド評価はやはり高いんですね。

谷口さん そうなんです。だからこそ、真珠が育つ海の環境を守っていくこと、そして変化する環境に柔軟に対応していくことが大切だと思います。日本ブランドとしての品質や信頼を次の世代へつないでいきたいですね。

坂本さん 課題もありますが、将来を見据えたビジョンを掲げることで、まだまだ業界の発展が期待できますね。担い手を育て、地域と協力しながら続けていくことが大切になってきそうです。

椿さん 教育とも、より連携できればいいですね。子どもたちにとっても「地域の産業を知る体験」になりますし。

記憶に残る体験が育む次世代

椿さん 島っ子ガイドでは、低学年は好きな場所を紹介するところから始まり、高学年になると親の仕事や祭りを調べて発表したり、インバウンド向けに地元案内を務めたりしています。自然と郷土愛が育っているふに感じますね。

坂本さん 体験の力は大きいですね。里山保育や米作りでも、危険や工夫を身体で学ぶことができる。

谷口さん 私たちも学校で真珠の出前授業をしています。開けてみると必ずしも良い真珠ばかりじゃないので、子どもたちが「頑張れ!」と声をかけてくれる場面も。産業を身近に感じてもらえるのはうれしいですね。

未来への想い。継承していきたいもの

中村さん 南伊勢町で開催した「星空再発見プロジェクト」では、定員10人に76人の応募がありました。県外からの応募も多く、関係人口が広が



る手応えを感じています。

椿さん 76人も!それはすごい反響ですね。

中村さん 今後も WEB や SNS を通じて外との接点を増やし、「人と営みのある風景」を発信し続けたいです。

椿さん 私は教育・観光・産業をつなぐ橋渡しを続けたい。体験を重ねた子どもたちは、どんな形であれ地域と関わり続けてくれると思っています。

谷口さん 真珠養殖は5年先の不安もありますが、教育とつなげながら世代を越えて受け継ぐ仕組みを模索していきたいです。

坂本さん 守るべきルールを共有しつつ、小さな挑戦を積み重ねることが大切。「当たり前にある特別さ」を言葉にして、次の世代へ手渡していきたいですね。

